

学年	教科等	単元名	日時
第2学年	体育科	気が付きゃ、ほら…ダンス！*	平成30年2月2日(金)2校時
本実践の主張	大学とアーティストの専門知(=本単元のダンス教材)をそのまま取り扱うことで、子どもの“硬い身体”が語り出し、表現の世界で夢中になって遊ぶことができるようにします。		

\* 本単元のダンス教材は、宮崎大学高橋るみ子准教授とアーティスト「んまつーボス」が考案したものです。



### ダンス教材「少年ジャンプの時代」は、ここがすごい！

- ◇ わずか2単位時間で、**一作品を創って踊ることができました。**
- ◇ 専門性の高い教材なので、  
子どもの動き(特にジャンプ!)が**アーティスティックに変わりました。**
- ◇ アーティストのジャンプ(写真)を**模倣**すると、  
今まで**体験したことのないジャンプ**をすることができました。
- ◇ 「エビ反りして」「身体をバァンと開いて」「クルッと回転して」  
「足を前後(左右)に開いて」「ギュッと小さくなって」「後ろを見ながら」  
「何を飛び越えるように」…**いろいろなジャンプ**に挑戦できました。
- ◇ 仲間がしているジャンプをたくさん**観て、おもしろい跳び方**をいくつも**見付けました。**
- ◇ 仲間がしているジャンプとは、**違うジャンプ**に挑戦しました。
- ◇ 向こうから走ってくる仲間と、**息を合わせて**ジャンプするようにしました。
- ◇ **グループ**で“応援”の**動きを創る**ことができました。
- ◇ これまでの“応援”の経験を思い出して、動きを創りました。
- ◇ 動くときに「ガンバレ、ガンバレ！」と声を出したら、“**応援**”という**感じ**がしてきました。
- ◇ はじめは動きがなかなか決まらなかったけれど、〇〇さんが意見をいろいろ出してくれたので、決まりました。
- ◆ グループでバラバラになってやってみたら、話し合った動きがそのとおりにできなくて残念でした。
- ◇ みんなの動きと、グループの動きをやってみたら、**あっという間にダンスができた**ので、すごいなと思いました。



### 指導者のスモールステップ ≠ 子どものスモールステップ

(アーティストのジャンプを模倣させる手立てにおいて)

写真を提示し、その場でジャンプの模倣をさせたが、その動きが、作品に生かされていないように感じました。その原因は、「その場でジャンプをさせたこと」である。写真のジャンプは、助走をしてジャンプをしています。扱う教材への素材研究の不足が、子どもにとって効果的なスモールステップとならなかった原因であると考えます。






○ 指導計画（6時間）

- (1) 「暑い国から来たスパイ」に挑戦する。 \_\_\_\_\_ 2時間
- (2) 「Goal Goal アリガト」に挑戦する。 \_\_\_\_\_ 2時間
- (3) 「少年ジャンプの時代」に挑戦する。 \_\_\_\_\_ 2時間
  - ・ いろいろなジャンプの模倣・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
  - ・ 応援の動き創り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1（本時2/2）

○ 本時の目標

“応援”の動きを、グループで創り、踊ることができる。

○ 指導過程

学習活動及び学習内容	教師のかかわり
<p>1 学習の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ リズム遊び                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「ダジャレDE一週間」</li> <li>・ ジャンプのいろいろ</li> </ul> </li> </ul>  <p>2 本時学習について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本時のめあて                             <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                                 “応援”の動きを創って、「少年ジャンプ」を踊ろう。                             </div> </li> <li>○ “応援”の動きの共有                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「頑張れ！」等を動きで表す（題材の具体）。</li> <li>・ 次の順番で“応援”の動きをする（構成）。</li> </ul> <div style="text-align: center;"> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">A</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">1班</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">2班</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3班</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">4班</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">5班</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">6班</span> → <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">B</span> </div> </li> </ul> <p>3 “応援”の動きに挑戦する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ AとBの動き                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Aが踊るとき、Bは手拍子</li> <li>・ Bが踊るとき、Aは手拍子</li> </ul> </li> </ul>  <p>4 グループで動き創りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ いろいろな“応援”の動き                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「大きな旗を振っている動きを入れたら？」</li> <li>・ 「ゲーの手を上は何回も挙げよう。頑張れと応援しているみたいに見えるね。」</li> <li>・ 「やあ！やあ！と声を出したら、もっと応援している感じがするよ。」</li> </ul> </li> </ul>  <p>5 全員で作品に挑戦し、学習をふりかえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「少年ジャンプの時代」</li> <li>○ 作品の鑑賞（映像）</li> <li>○ 感想                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「1班の応援は、迫力があってよかったよ。」</li> <li>・ 「全部踊ると、こんな感じになるのか…。」</li> <li>・ 「幾つもの応援が集まって1つの応援になっている感じがしたよ。」</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ プロのダンサーの写真（左）を、複数枚提示し「まねっこ、できるかな？」と問うことで、動きの異なるジャンプに挑戦できるようにする。</li> <li>○ 「応援するとき、どんなふうにする？」と問う。「頑張れ！」「行け行け！」等の掛け声をするという反応が予想される。その後、「頑張れ！という感じのする動きは、どんな動き？」と問い返すことで、“応援”を動きで表すことの意味を理解できるようにする。</li> <li>○ “応援”の動きの順番をともに確認するために、カード（左）を提示する。このカードは、作品の構成を意味する。構成を視覚化することで「部分が組み合わさり、1つの作品になる」という気付きを期待したい。</li> <li>○ AとBの動きを演示し模倣させる。音楽に合わせてともに動いた後、男女の動きを称賛することで、「すぐに踊れた。」と踊ることへの自信をもたせたい。</li> <li>○ 動きの決まらないグループがいると予想される。その原因は、動きが思いつかないことよりも、出された動きを一先ず試そうとしないことであろう。そこで、次の手立てをうち、発想の違いを生かした動き創りをさせたい。                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が動き創りに入り「それ、いいね！○○くんの手を挙げる動きを、次々にやってみない？」と出された動きのよさを価値付け、すぐに試せるように助言する。</li> </ul> </li> <li>○ 動き出しのきっかけをタイミングよく伝えることで、思う存分踊ることができるようにする。</li> <li>○ 作品を観た感想を付箋紙に書かせる。左のような感想を全体に紹介することで、覚えたり創ったりした動きを順番に踊ったら、あっという間に1つの作品になっているというおもしろさに気付かせたい。</li> </ul>

○ 学びの本質に向かっている子どもの姿

ゲーの手を挙げるときに「頑張れ！頑張れ！」って声を出すようにしたよ。班で別々に創ったのに、映像で観たら1つの作品になっていた。何だか不思議…。

【思考・判断】【技能】

